

2010 年 9 月 30 日

SAAJ NEWS RELEASE

公開草案「その他の包括利益の項目の表示」についての意見書を提出

(社)日本証券アナリスト協会（会長：稲野和利 野村アセットマネジメント会長）は、2010 年 5 月に公表された公開草案「その他の包括利益の項目の表示」についての意見書を作成し、9 月 30 日（木）に国際会計基準審議会（以下 IASB）へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 当協会は純損益の重要性を一貫して主張してきたため、公開草案が「当審議会は、業績の測定値としての純損益を廃止する予定はない。純損益は引き続き明確に表示され、1 株当たり利益の計算に必要とされる出発点であり続ける。」と明記し、「包括利益計算書」の表題を「純損益及びその他の包括利益計算書」へ修正した点を高く評価したい。また、「当期純損益」と「当期の包括利益合計額」を明瞭に区別して表示する単一の計算書は、2 計算書の支持者へも十分な配慮があり、当協会の主張に合うものとして支持する。
- ✓ ただし、この純損益はフルリサイクリングされた純損益であることが決定的に重要である。当協会は企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係が維持できるというメリットから、現行の日本基準や米国基準と同様に、その他の包括利益（以下 OCI）項目は売却等で実現した損益を純損益に反映（リサイクル）する方が良いと考えている。
- ✓ 本年 6 月に全会員を対象に実施した会計についての包括的なアンケート調査でも、営業利益で事業からのキャッシュフロー、包括利益で資産価値変動リスクを反映した当期の業績が見られるので、中間にある純利益は資産価値変動前のボトムラインとして当期に実現した利益とすべき（リサイクルする）という回答者が過半数の 54%を占めた。
- ✓ IASB の提案に従ってリサイクルしない OCI 項目が増えると、留保利益とその他包括利益累計額（AOCI）の区分が曖昧になり、財務諸表の質と信頼性を低下させることが懸念される。企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係を維持するために、現行の日本基準や米国基準がフルリサイクリングを採用している意味を、IASB はもう一度よく考え直して、リサイクリングについて検討していただきたい。

【添付資料】

資料1 *re: Comments on Exposure Draft*

“Presentation of Items of Other Comprehensive Income”

資料2 公開草案「その他の包括利益の項目の表示」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

(社)日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞